田中研新聞

第119号
２０２３年４月４日発行

甲南大学知能情報学部田中研究室　ほぼ毎月発行
http://carnation.is.konan-u.ac.jp
編集責任：田中雅博

# 新年度発進！

## 田中研究室「ラス前」です

令和５年度が発進しました。定年が２年後となり、おとなしく退職準備をしていこうかと思っていましたが、実際は今までこれほどたくさんの仕事があったことがないほど、多くの仕事を頼まれる昨今です。ちなみに、仕事とはほぼ研究のことをいいます。それらを紹介します。一方で、研究室の学生の研究は、学生のやる気とやる内容をなるべく一致させ、私の研究の請負にならないように注意します。学生は、やる気を出さないと卒業できないということです。

**学会関係**

今まで学会の仕事は避けてきたというか、多分そう見えていたのでしょう。あまり頼まれたことはありませんでしたが、今年度、初めて計測自動制御学会ＵＤＸ部会の副主査を頼まれ、お引き受けしました。何をしなければならないのか、何ができるのか、あまり考えていませんが、頼まれれば引き受けるというのが私のスタンスです。その関係もあり、今年は、従来のＳＩや電気学会Ｃ部門以外に、ロボメックも行くことになりそうです。ＡＴＡＩＴ２０２３のプレナリー講演も引き受けました。

博士後期課程２年の張君は、自己の研究歴がどうなるかを見据えながら論文を出すところを選ぶようです。それは若い人には重要ですね。

**学内**

図書館入館システムは、ほぼ完成です。これから機能を充実させていくつもりです。詳しくは、左の記事を見てください。サイバーライブラリもこれになるかもしれません。

他大学もこれを採用してくれたら・・・と夢は広がります。面白いではありませんか。

**論文**

現在、掲載が決まっているジャーナル論文が１つ、ほぼ間違いないのが１つ、査読中なのが１つ。それ以外に、院生の張君が出すと言っていますから、うまくいけばジャーナル論文の嵐になるでしょう。国際会議は興味とその時の都合でという感じで出していきます。来年度は、最後、退職する年なので、あまり遅い時期に出すと、投稿料が自腹になるため、早めに切り上げるつもりです。そのためにも、今年度は論文がたくさん出る予感！

**共同研究**

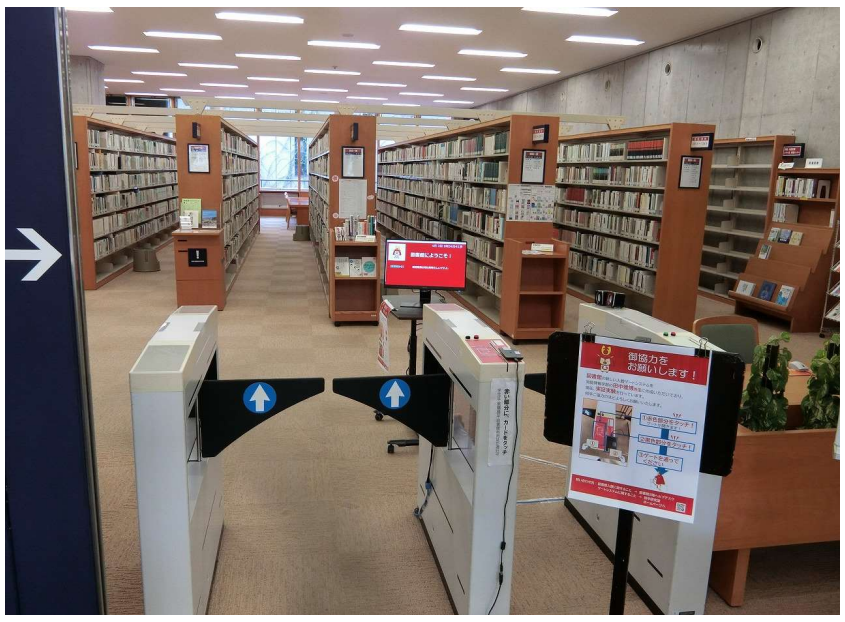
学内、学外との共同研究も継続分、新規分いくつかある予定です。私は、共同研究では学生にプログラムをさせるつもりはありません。プログラムの仕事は、結構勘を働かせてしないとできません。そこのところを学生に任せてしまうと、重要なポイントがわからないのです。世の中には、大規模なプロジェクトをマネージされている先生もたくさんあるし、会社の仕事だってそうです。だから、私はそういうマネージャーには向かず、自分でコツコツやる職人なんだなと、自覚しています。ですから、共同研究では、責任をもって全部自分でプログラムを作ります。

**趣味**

写真の趣味が高じて、インスタやフェイスブックでは花と鳥の写真だらけです。これも、人と一緒に撮影に行ったら全然気分が乗りません。一人で、ああでもない、こうでもないとやらないといい写真が撮れる気がしないのです。私がカメラを持っていくと言ったら、妻は「一人で行って！」です。

# 図書館入館システム

あと少しです・・・




図書館入り口の入館システムも、理事長への約束の４月１日を過ぎ、多少遅れ気味ですが、実質、新年度の開始に間に合いそうなタイミングでほぼ出来上がってきています。

あと、定常的な運営のためのマニュアル作成（異常時の対処方法の説明など）、ファイルの更新、そして、動作の説明文作成などが必要と思っています。

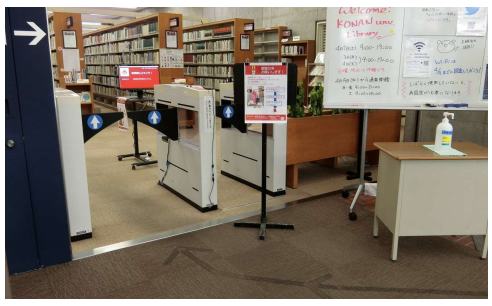
現在は、写真の通り、従来ゲートとの併用のため、両方のリーダーに当てて入館する人は多くはありませんが、右横のポスターを読んで、しっかり協力してくださる方もあります。

**基本的な機能**

① カードを接触によりカードリーダに読み込ませます。これにより、いま使われたカードの所有者のＩＤ、氏名、所属などが読み取れます。

② あらかじめファイルに書き込んである、図書館利用可能者リストと照合して、入館資格を確認します。年度の途中で退職や退学などにより資格を失った人の情報も使います。資格がない人がカードをかざした場合、「資格がありません」というメッセージがディスプレイに表示されます。学外者など、カードは読めるが本学の図書館の利用資格がない人も、音と表示で知らされます。そういう表示が出たら、無理やり入らず、そこで引き返し、左のカウンタに言って話すという流れが本来の方法です。

③ ゲートの終わり付近でレーザースキャナが人を検知し、人が入ったことを確認します。カードで入館資格がないことが分かった人がゲートを通過すると、警告表示が出ます。カードをしっかりタッチしてください。



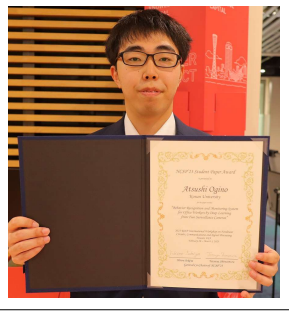
④ メッセージは、（１）図書館から、（２）所属学部等から、（３）個人向けの３つがあります。現在、個人名などは表示していませんが、もちろんシステムは把握しています。そこで、所属（例えば、学部生なら、その学部）からの一律のメッセージを表示します。個人向けのメッセージでは、延滞の本があればその情報、また、ライブラリーサーティフィケイトのための情報などを表示すればいいのではないかと思っています。ただ、この部分の設計は私が決めることではないので、図書館から要望が出てから動きます。このシステムから、図書館システムへの接続は今のところないと考えていますので、延滞情報であれば、図書館の職員による情報の入力が必要となります。ライブラリーサーティフィケイトであれば、借りた本の情報が必要であり、これまた、本システムでは接続できないところの可能性があるので、その場合は、図書館員による手入力が必要となります。おそらく、図書館システムを最初からこういうことを想定して、追加システムからのアクセス方法を導入しておかなければなりません。ここを、請負業者に任せておくと、そうならないだろうと思います（これは一般論です）。（１）と（２）の情報の入力のためには、外部のブラウザーから情報更新できるシステムが必要と思われ、そのために、本ＰＣには、ＸＡＭＰＰが入れてあります。

# 荻野君、Student Paper Award

## ＮＣＳＰでのハイブリット講演

３月に参加した国際会議（ＮＣＳＰ）で、荻野君が学生論文賞（Ｓｔｕｄｅｎｔ Ｐａｐｅｒ Ａｗａｒｄ）を受賞しました。おめでとうございます。これで、荻野君は、院生において、３つ目の受賞となりました。

私の学生時代は、国際会議での発表もしませんでしたが、最近はそういう機会に恵まれ、また、受賞する学生も多く、うらやましい感じがします。荻野君の場合は、それに値する研究の量と質も確かにあったと考えられ、私も、鼻高々です。こうやってかれ（ら）が作ったシステムは、そのまま放置すれば２～３年で忘れ去れらることになりますが、もったいない限りです。せっかく作ったシステムですから、何とかして世に残したいというのは当然の気持ちでしょう。今後、オープンキャンパスなどで、実演していきたいと思っており、どこかの企業がこれを継続してくれればという気持ちはあります。（お～い、どこか買ってくれんか～？）



受賞はもちろん学生の名誉ですが、指導した私にとっても、仕事の業績の中で、宝が増えていく喜びを感じることのできる受賞でした。

## 予定

５月12日（金）　神戸市シルバーカレッジで、講義の予定（ＩＣＴ）

## 編集後記

先月も書きました通り、やはり、３月は「去り」ました。あっという間でした。本当は、半月ほど、つかの間の休暇でも楽しもうかと思っていたのですが、図書館の入館システムをやっているうちに時間は音もなく通り過ぎてしまいました。

いささか、新年度の心づもりが出来上がっていないのが心配です。これで教壇に立てるのだろうか。定年を目前にして、この歳でも、春休み、夏休みの後はいつも思うことです。

今日も、あわてて田中研新聞を書きました。２ページ書く余裕はなく、１ページです。卒業式の日のこと、その日のキッズフェスティバルに私のシステムを２つ出したこと、書こうと思えばもう１ページ分書くことはできたのですが、ちょっと多忙で気力が持ちません。それでも、退職するまでは書き続けます。コロナの時ですら１か月も途切れずに書いたのですから、いま書けないはずはないのですが、実際は、その頃よりも書くことに困難を感じています。これも歳のせいか？この頃、そう思うことが増えました。

これから１週間以内に、多くの学生と対面し、また、夏休みが来るまで多忙の日々となるでしょう。しかし、それが自分を支えているようにも感じます。